

『一度出会った人に、安心・安全・感動を持ち帰っていただく』



有限会社岡崎ボデー工場

代表取締役

かわかみ たかし

河上 隆司

山口商工会議所 1号議員

1956年山口市生まれ。高校卒業まで山口市湯田温泉で過ごし、大学進学と共に上京した。卒業後は東京の会社に就職し、営業職として札幌支店に2年勤務した。その後東京に配属され、5年間を東京で過ごし29歳の時に帰山。現在の(有)岡崎ボデー工場に入社した。車を運転するのが大好きで、これまで自身で運転して行った一番遠い場所は岩手県平泉町。

〔企業概要〕

(有)岡崎ボデー工場

住 所：山口市吉敷下東2-4-8

T E L：083-922-4874

従業員数：21名

河上社長のプロフィールを教えてください。

私は山口市湯田温泉で生まれ育ち、高校を卒業するまで山口市で過ごしました。東京の大学に進学して、卒業後は東京の企業に就職して営業として勤務することになり、最初の勤務地は札幌でした。私は一人っ子なので、いつかは帰ってくるのかも…という、ほんやりとした思いだけは持っていたのですが、それも「いつかは」程度のイメージに過ぎず、山口市に戻って来ることは全く考えていませんでした。

大学4年生の時に出会った妻が、(有)岡崎ボデー工場の社長の娘だったのですが、私は既に就職も決まっていたし、車両整備や修理に関する知識も何一つ持ち合わせていませんでしたので、後を継ぐとは思っていませんでした。しかし、妻は3姉妹の長女であり、たまたま私も山口市出身の一人っ子ということもあり、先代から「そろそろ戻って来ないか」と声を掛けられ、29歳の時に山口市に戻って、現在の(有)岡崎ボデー工場に入社しました。30歳の時に専務取締役役に、43歳の時に現職に就任し現在にいたります。

営業職からの転職ですが、ご苦労もありませんでしたのでは？

私は車を運転するのは大好きですが、入社当時はエンジンのことも塗装のことも全くわかりませんでした。先代もそれは理解していて、私に現場での仕事を望んでいた訳ではなく、「営業として頑張ってもらいたい」と言われました。営業職でも、整備や塗装の事がわからないと見積もりも作れませんので、入社してから一生懸命勉強しました。

当時は景気が良く車の販売台数も多かったため、自動車販売店からの修理や整備の仕事を受けることが全体の8割を超えていた



店内には各自動車メーカーのカatalogが。色々なメーカーのものを一度に見比べることができます。

と思います。一般のお客様からの仕事は2割程度でした。外注の仕事は利幅が少ないのですが、整備や修理などのやるべき事は一緒です。これでは割に合わないという思いを私自身も持っていたので、エンドユーザーの方に、直接当社を利用してもらえるように、私自身が色々な所に顔を出して、つながりを作るように努力しました。幸い私は生まれも育ちも山口市で、地域には知り合いも多かったため、地域活動を始め、山口商工会議所での活動やPTA活動など、様々なところでつながりを広げることができました。

(有)岡崎ボデー工場について教えてください。

先代は塗装職人で、技術を活かして昭和44年に現在の場所で当社を興しました。当時は湯田自動車学校と当社以外、周りは田畑ばかりという景色だったそうです。創業当時はディーラーから頼まれる修理業務が殆どでしたが、現在は自動車の点検・整備と修理、車検を中心に、新車・中古車の販売と、それに附随する保険の販売も行っています。

変化のスピードが速い時代ですので、新しいもの・ことがどんどん生まれています。こつこつと情報を仕入れながら、お客様にお伝え教えられるように、私自身はもちろん、社員全員が勉強しています。

「一度出会った人に、安心・安全・感動を持ち帰っていただく」というスローガンには、どのような思いが込められているのでしょうか。

車に乗ってれば、事故をするリスクは当然あります。傷ついた自分の愛車を誰かに預けるわけですから、「安心して」預けていただけの会社でありたいと、常に思っています。ぶつけてしまった、こすってしまったという時が私たちの番ですが、誰しも事故なんてしたくないでしょう? 「もう事故をしないよう、気を付けよう!」と思うはずですから、もしかしたら、そのお客様とお会いするのは最初で最後かもしれません。だからこそ、せっかく当社に預けていただいたのだから、最後には感動をもって帰ってもらいたいと考えています。車検の後には「次回も是非お願いします」と言いますが、修理の後に「また来て下さいね!」とは絶対に言いませんよ(笑)。

「岡崎ボデーに頼みたい」と思ってもらえる安心感と、今後は気を付けようという安全への気持、「綺麗になって良かった、やっぱり岡崎ボデーに任せて良かった!」という感動の気持を持って帰っていただけるような会社であるように、常に心がけています。

山口商工会議所青年部会長などでも活躍いただいていますね。

42歳の時に、青年部会長に就任しました。翌年には青年部県連会長に就任し、卒会後はOB 会会長も長年務めさせていただきました。

私が青年部に在籍中に、「長州青組」というよさこいチームを立ち上げました。山口商工会議所青年部で、よさこいの本場・高知の方に講演会講師をお願いしたことをきっかけに、「よさこい」で山口市のまつりを盛り上げようと思ったのです。その後は2001年に「山口きらら博」が開催されることがわかり、県青連でよさこいを披露できるようにと考えました。山口

県内の商工会議所青年部の力を結束して、山口きらら博で「よさこいにつぼん山口まつり 維新」を成功させることができました。

「青組」は、青年部の「青」の字を取って名付けたのですが、きらら博時には青年部メンバーだけでなく、10代から50代までが所属していました。あれから15年が経ち、当時小学生だった子が、今では立派に社会人になって活動してくれています。下の世代も育ってきて、山口市内でも他のよさこいチームが立ち上がっています。8月のちょうちんまつりにも、他市・他県からのよさこいチームが参加してくれるイベントができるようになりました。



直近の長州青組集合写真。高松で演舞してきました。

山口市についてどのような思いを持っておられますか?

生まれも育ちも山口市湯田温泉ですし、山口市への愛は強いと思います。

山口市は本当に魅力に溢れたまちです。大内文化や維新などの歴史や文化はもちろん、自然もあり、発信できるものは沢山あると思いますが、外に「伝える」ことができていないのが残念です。

新しいモノを受け入れるのが苦手な土地柄かもしれないと感じています。私たちが「よさこい」のチームを作ろうとしたときも、「山口のような歴史あるまちで、なぜよさこい

なんだ? 総踊りもあるのに…」と反対されたこともありましたが、さすがに良いと思えるものは、まるごと取り入れて自分たちのものにするくらいの度量も、あっても良いのではないのでしょうか。

私たちはよさこいの大会で県外へ行くことも多いので、小さな事かも知れませんが「山口」「長州」を発信できるようにと頑張っています。「男なら」をベースにした曲での演舞もありますし、青組の鳴子は大内塗りの「ちょうちん」を象った特注品を使っていた頃もありました。

大学生の頃によさこいを通じて地域活動に参加することが増え、山口市への愛着がわき、そのまま山口市に就職して山口市民になったという若者が何人もいます。

自分たちがこれまで時間をかけて行ってきた「啓発活動」も、少しずつですが地域のためになっているのかもしれないと思います。

これからの目標などを教えてください。

みなさんもよくご存知だと思いますが、自動車はどんどん進化しています。それに伴って、保険も色々と変化して

います。車に関することや、附随する様々な情報については、常に最先端のものをタイムリーにお客様にご提供できるように心がけています。

今年私は還暦を迎え、時計の針に例えるとぐるりと一周したところですが、これまでの60年は、生きるために、毎日目の前のことに一生懸命になってきた日々でした。あとのくらい時計の針を進められるかわかりませんが、これからの1周は、これまで多くの皆さんからいただいてきたもの・ことへの恩返しを忘れずに過ごす、感謝の期間にしたいと思っています。



工場内の様子。整備の現場では、女性も活躍しています!